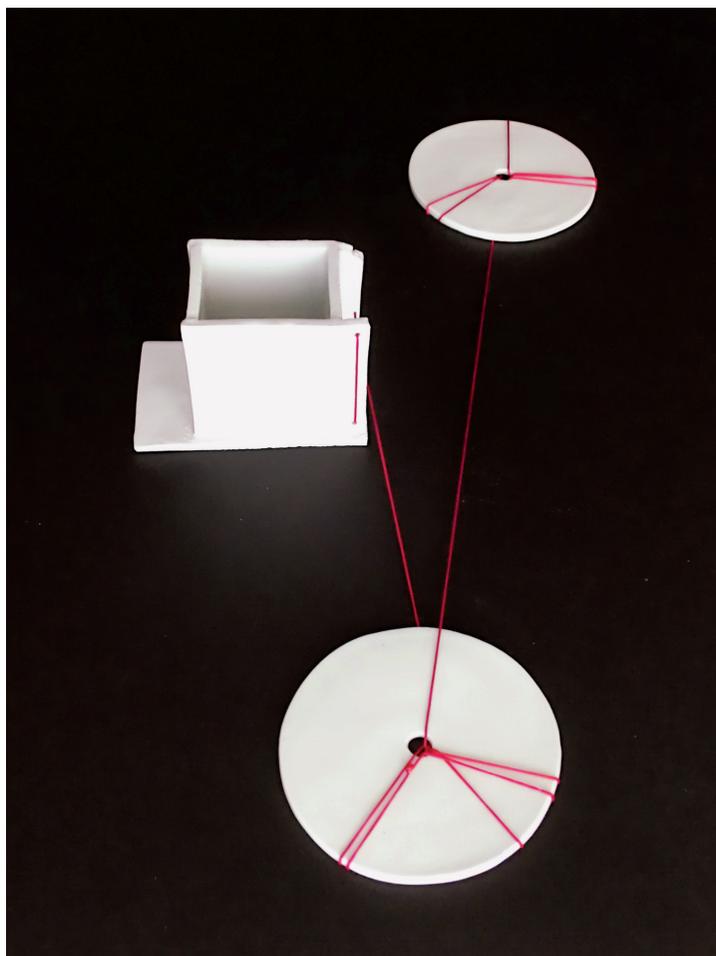


アートギャラリー

白磁
=赤い糸=

石田成昭



奈野527 高9cm

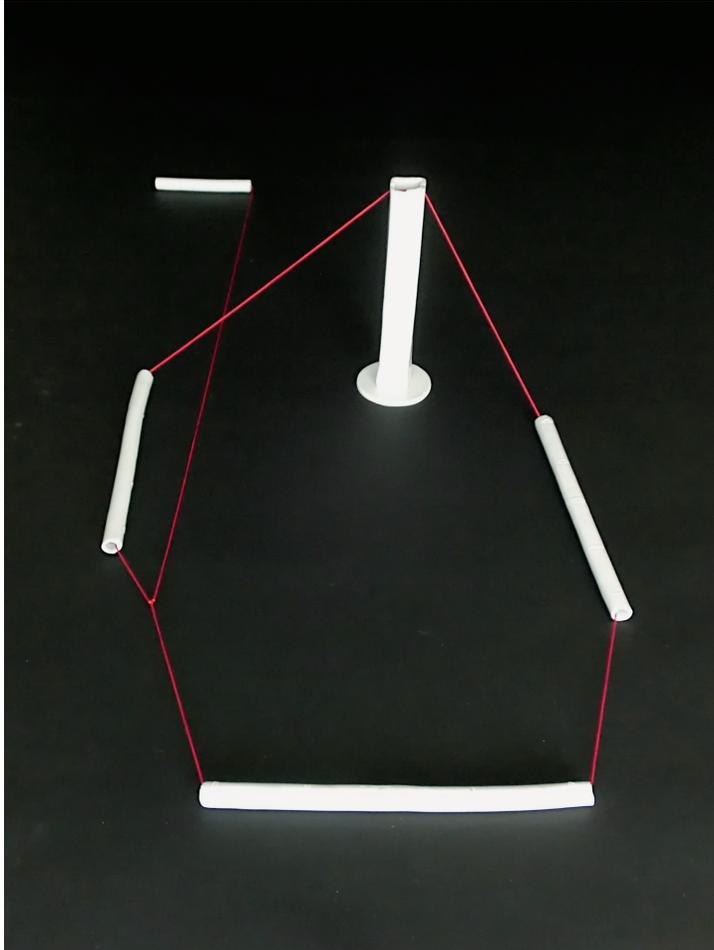
—赤い糸—

白磁と白磁を赤い糸で繋ぎ合わせる事を思い付いた。

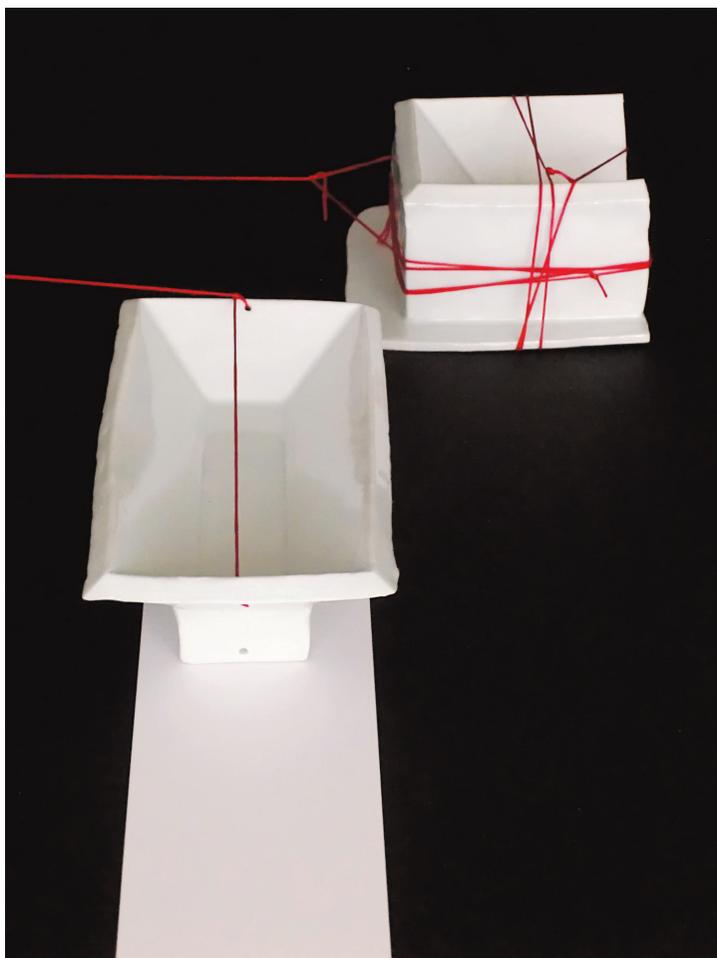
此の世の男女は前世から赤い糸で結ばれていると云う。赤い糸は不思議な運命の出会いを象徴している。最近新聞（毎日新聞・歴史の鍵穴）で知った事だが、平城京は伊勢神宮と出雲大社を直線で結ぶ線上にあると云う。又それは偶然ではなく意図的に為されたものとも云う。つまり伊勢と出雲は奈良を経て1本の糸で結ばれていることになる。その距離は380km、スケールの大きさに驚くが、あの時代に果してその様な事が可能だったのだろうか。半信半疑ながら興味は尽きず、何とも嬉しくなる話である。平城京の上空を一筋の赤い糸が走る。もう1つ赤い糸で思い出すのは、小さい頃姉から教わった“綾とり”である。女兒のする遊び故か赤い糸が良く似合う。1本の糸の両端を結び輪をつくる。左右10本の指でそれを操ると抽象的な図形が次々と現れる。梯子、蟹、朝顔、飛行機、富士の山と数え上げれば限が無い。縦、横、斜めに張った糸の形は単純明快で、準える“見立て”も面白く想像力を掻き立てられる。

白磁と異素材（金属、木、ガラス、紙）の融合をテーマに制作を進めているが、糸は紙と同様に軽くて柔軟性があり大変使い易い素材である。白磁と糸との取合せは焼物の醍醐味でもある“手に触れて遊ぶ”と云う工芸の本来の姿を取り戻して呉れる。赤い糸で結ばれた白磁は深い絆を携えて未来永劫長い旅に出る。

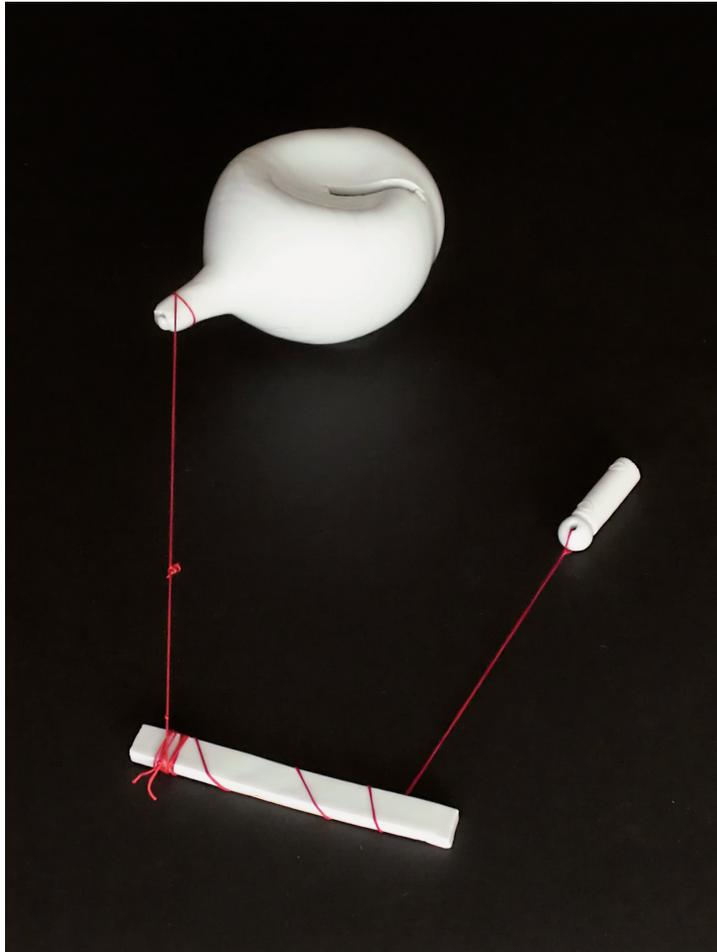
神の世も結ぶ赤糸伊勢出雲
綾なす糸のいととをかし



奈野 5 2 6 高 21cm



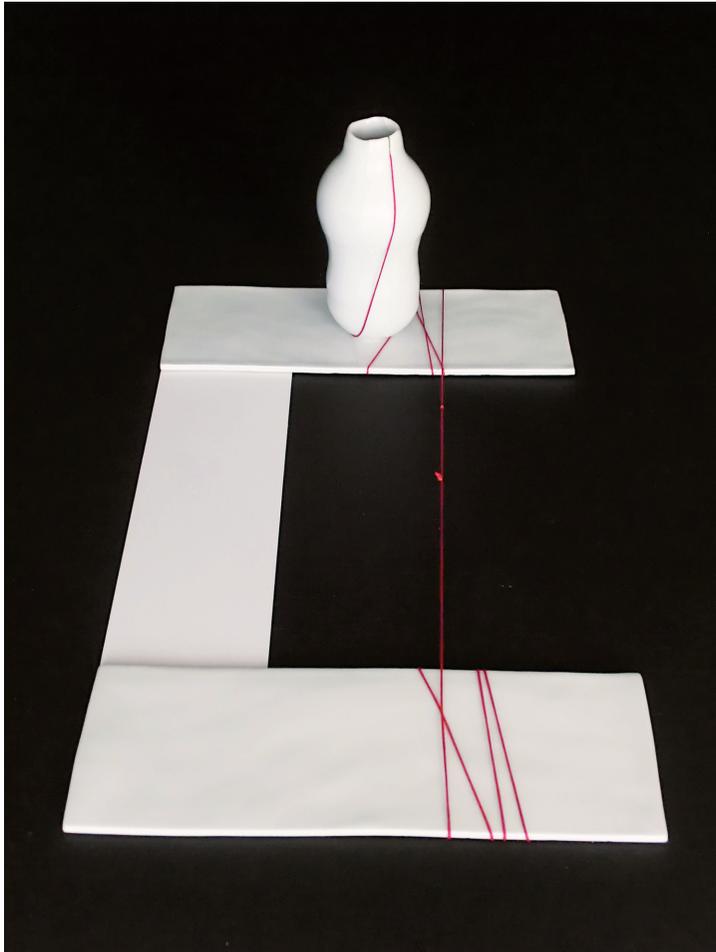
奈野 5 2 8 高 8cm



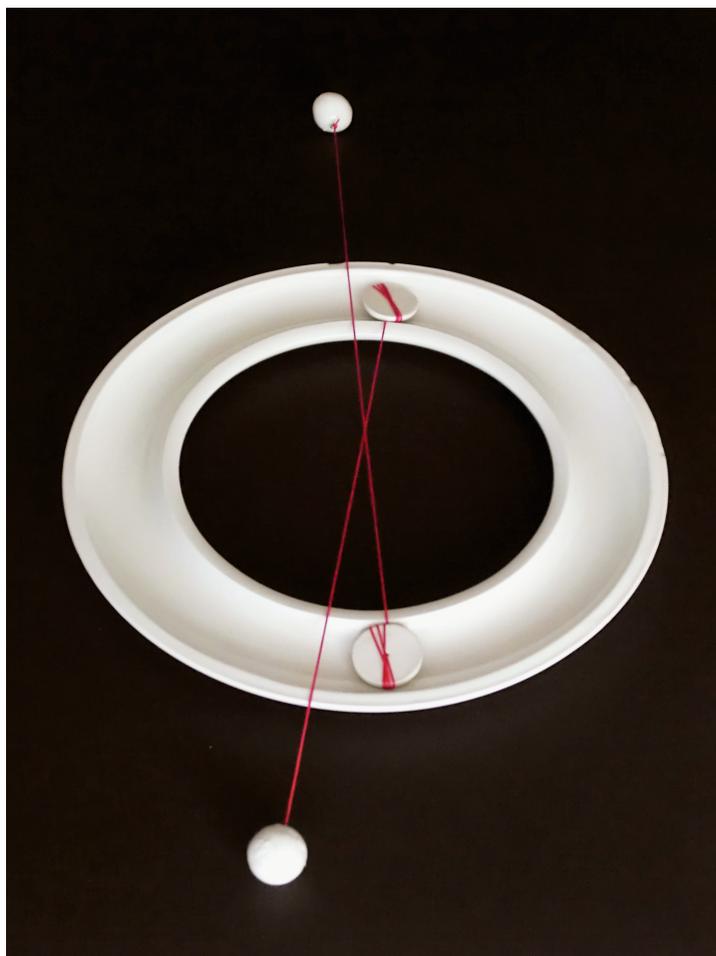
奈野 5 2 2 高 13cm



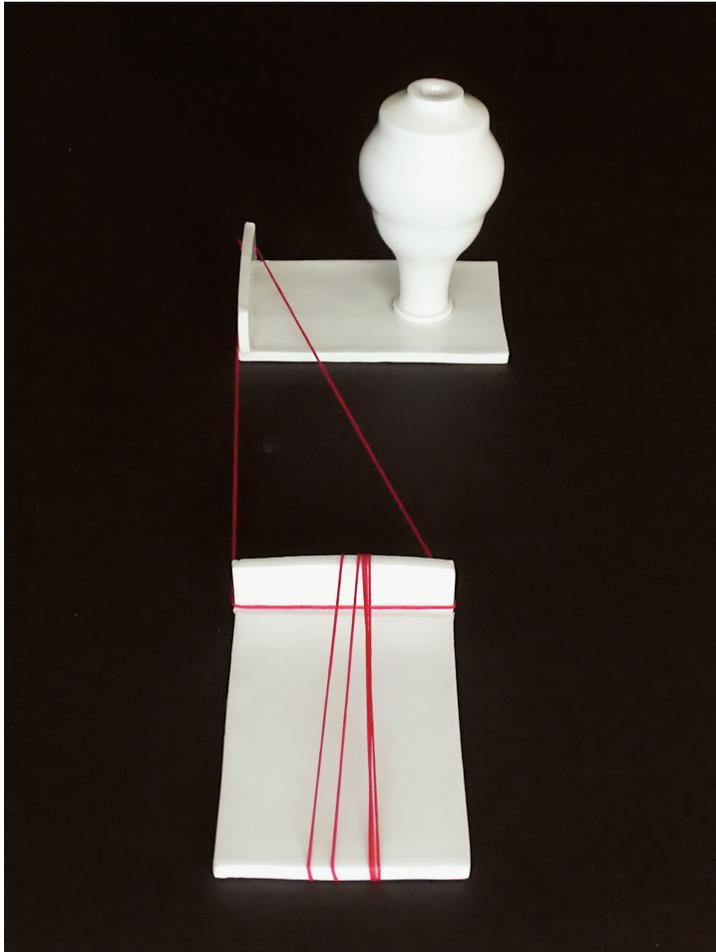
奈野 5 2 5 高 12cm



奈野 5 2 3 高 26cm



奈野 5 2 1 高 3cm



奈野 5 2 4 高 15cm